

令和 8 年度

「運営に関する計画・自己評価」

大阪市立今川小学校

令和 8 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○安心・安全については、令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについては、160件中160件解決できており、解消した割合は100%であった。また、令和7年度の(小学校学力経年調査)・校内調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする目標も達成できた。不登校児童については、長期にわたって不登校になる児童は6名であり、目標もおおむね達成できた。休みがちな児童が多く、家庭と連携を密に取り、心のケアやサポートを継続していく必要がある。発達支持的生徒指導や課題未然防止教育などの「課題予防的生徒指導」に重点を置き、新たな不登校児を作らないようにしていく必要がある。

○学力については、低・中位層の底上げ、また、上位層からの中位層への流出を防ぐことが課題である。そのためには、基礎基本の反復練習(計算・漢字など)や、活用問題に慣れるための時間が必要であり、モジュールタイムで計算力や言語力を強調週間を設けるなど学力向上に向けた取り組みが必要である。また、専科学習の取り組み方、若手教員の授業力・指導力も児童の学力に直結していることが分析の結果から明らかとなり、研修の内容・深め方に考慮が必要である。さらに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指していくために、ICT機器の効果的に活用していく次のフェーズに入っていく必要がある。紙の良さとデジタル機器の良さを合わせた授業をしていきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を87.0%以上にする。【R11末 87.0】
- ・毎年度末の校内調査において、毎年度の不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88.0%以上にする。【R11末 88.0】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和11年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.00にする。
4年 平均正答率の対全国比 0.89
5年 平均正答率の対全国比 0.99
6年 平均正答率の対全国比 0.85 【R11末 国語 算数ともに1.00】
- ・令和11年度小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を男女ともに全国比1.00にする。【R11末 男女ともに1.00】
- ・令和11年度小学校学力経年調査における「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、令和11年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。
- ・令和11年度小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を84%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02向上させる。
4年 平均正答率の対全国比 0.89
5年 平均正答率の対全国比 0.99
6年 平均正答率の対全国比 0.85
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・ 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。
- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

(様式2)

大阪市立今川小学校

令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(昨年度 83.5% 大阪市 84.7%) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(昨年度 2.16 大阪市 2.05) ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(昨年度 82.1% 大阪市 86.9%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 集会や縦割り班活動、今川フェスティバルなど、児童が楽しめる活動を通して、充実した学校生活が送れるようにする。	
指標 ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(昨年度 83.5%)	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 病欠以外の欠席が多い、遅刻が多くなったなどの不登校傾向がみられる児童に対して、対応やマニュアルに基づき担任や養護教諭を中心に早期発見を行い、全教職員が協力し、関係機関等と連携して、初期段階から支援を行う。	
指標 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(昨年度 2.16)	
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・ 日々の学習や活動を通して自己肯定感を高められるような声かけを工夫する。	
指標 ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(昨年度 82.1%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 向上させる。 4 年 平均正答率の対全国比 0.89 5 年 平均正答率の対全国比 0.99 6 年 平均正答率の対全国比 0.85 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。（昨年度 87.8%） ・ 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 毎日 10 分間の今川タイムで基礎基本の学習に取り組み、言語力や計算力の向上をはかる。 指標 ・ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 向上させる。 4 年 平均正答率の対全国比 0.89 5 年 平均正答率の対全国比 0.99 6 年 平均正答率の対全国比 0.85	
取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 ・ 毎日、昼休みに講堂を開放し、体を動かす遊びやスポーツをする機会を増やす。 ・ 固定遊具、用具を使った運動やなわとび・持久走に児童が主体的に取り組む「今川パワーアップタイム」を学期に 1 回設定する。 ・ 運動委員会が企画、運営する「今川みんな遊び」を年間 3 回以上行う。 指標 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。（昨年度 87.8%）	

取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 ・学期に 1 回、健康週間を行い、規則正しい生活を心がけて、生活できるようにする。 ・「食に関する指導の全体計画」に基づき、各学年、年に 2 回以上の食に関する指導を行い、食に関する児童の興味・関心を高める。健康教育や給食の時間等で朝ごはんを毎日食べることの大切さに気づくことができるようにする。 指標 ・小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 % 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。 ・「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。(昨年度 65.3%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・「心の天気」を毎日入れるとともに、各学年に応じて、デジタルドリルや学びのポータルサイトの共有機能などを活用し、個別最適な学びや協働的な学びの機会を増やす。	
指標 ・小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・時差出勤の積極的な活用を行うとともに、週に1回以上のゆとりの日を設定し、定時退勤できる日を確保する。	
指標 ・「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。	
取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】 ・はぐくみネット事業と連携した学校図書館の充実を推進する。お昼休みの図書館開放や週1回の図書の授業を活用して、本に親しむ機会を増やす。	
指標 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。(昨年度 65.3%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点